

関係機関が連携し、地域一体となった鳥獣被害対策を推進（佐賀県唐津市・玄海町）

- 関係機関と連携し、鳥獣被害対策を支援する体制として、広域協議会及び支援チームを設立。「地域一体となった被害対策」をモットーに、対策を推進。
- 近年、地域自らが主体的に被害対策に取り組むようになってきている。

唐津市・玄海町の課題

1 鳥獣被害の現状

- 鳥獣による農作物被害の大半を占めるイノシシ被害については、平成元年頃から山間部の水稻を中心に被害が発生し、その後拡大。近年では、平坦部にも被害地域が拡大し、市街地への出没も発生している。



2 課題

- それぞれの機関が個別に対応しても対策がなかなか進まないため、関係機関が連携し、被害対策を支援する体制整備が必要。
- 個人で被害対策を実施しても被害を防ぎきれず限界があるため、集落等の地域が一体となった被害対策の推進が必要。

主な対策

- 関係機関による被害対策推進の体制を整備
 - ・「唐津地域有害鳥獣広域駆除対策協議会」を設立(H20)し、事務局である唐津市を中心に関係機関が連携し、地域の被害対策を総合的に推進。



- 地域一体となった被害対策の推進
 - ・「鳥獣被害対策支援チーム」を設立(H23)し、集落等に対し、「地域一体となって3つの対策（棲分・侵入防止・捕獲）に総合的に取り組む被害対策研修会」を開催。地域の優良事例についても普及啓発。



- ・また、捕獲者のみが作業を行うには労力に限界があるため、免許不所持者が捕獲者の作業を補助できる補助者制度を活用し、地域の捕獲者と補助者(免許不所持者)が連携した地域ぐるみでの捕獲(捕獲班)を推進。

対策の効果

- 被害対策に取り組む地域自らの動き出し
 - ・被害対策研修会や集落環境診断等を自ら開催する地域が出てきた。



- ・侵入防止柵や集落環境診断等の優良事例を地域間で自ら視察研修する地域が出てきた。



- 唐津市・玄海町の農作物被害金額の減少

H19年度 全体 : 129百万円
うちイノシシ : 121百万円



H29年度 全体 : 45百万円
うちイノシシ : 36百万円

- 唐津市・玄海町のイノシシの有害捕獲数の増加

H20年度 : 1,882頭
H29年度 : 5,881頭



- 捕獲班の設置数
5班(H29年度時点)

関係機関が連携し、地域一体となった被害対策を推進（佐賀県唐津市・玄海町）

きっかけ

- 鳥獣による農作物被害の拡大。
- 被害の大半を占めるイノシシ被害については、山間部の水稻被害に始まり、平坦部にまで拡大。

Step1 広域協議会の設立

- 唐津市、玄海町、猟友会、JA、共済組合、唐津警察署、森林管理署、県機関を構成メンバーとする「唐津地域有害鳥獣広域駆除対策協議会」を設立(H20)。
- ・地域の被害対策を総合的に推進。

Step2 被害対策支援チームを設立し、地域一体となった被害対策を推進

- 市町、JA、共済組合、県機関を構成メンバーとする「鳥獣被害対策支援チーム」を設立(H23)。
- ・鳥獣対策に苦慮している集落等に対し、被害対策研修会等を実施。地域一体となって、棲分・侵入防止・捕獲の3つの対策に総合的に取り組むことの重要性を周知。地域の優良事例についても普及啓発。
- ・補助者制度を活用して、地域の捕獲者と補助者(免許不所持者)が連携した地域ぐるみでの捕獲を推進。H25年4月に県内初となる捕獲班が設置され、これまでに5班が設置された。

- ・現場への支援が今一つ・・・。
- 集落等に直接支援できる体制が必要！
- ・効果的な対策はまだまだ・・・。
- 現場への「地域一体となった被害対策」の推進が必要！

取組の成果、今後について

○成果

- ・広域協議会の設立から10年が経過し、鳥獣被害対策を推進する上で必要な体制が整い、効率的で効果的な対策が安定的に実施できるようになった。
- ・被害対策研修会等を自ら開催する地域も増えてきた。また、ある地域では、自治会・生産組合・青壮年クラブ・女性会・老人会等からなる地域独自の鳥獣被害対策協議会を発足させ、地域一体となった対策に加え、イノシシを地域資源として活用する取組も行っている。

○今後

- ・関係者や地域が一体となった被害対策をさらに進めていく。

Step3 地域自らの動き出し

- 被害対策研修会や集落環境診断等を自ら開催する地域が出てきた。
- 侵入防止柵や集落環境診断等の優良事例を地域間で自ら視察研修する地域が出てきた。

取組を経て…